

# 花壇總目中

農商省  
圖書  
號  
冊

第 四九四 號  
共 冊

大政官文庫

和	書	門
一	二	七
二	七	二
三	冊	函

內閣文庫

和	書	門
一	二	七
二	七	二
三	冊	函

番號	和	11272
冊數		3 ( 2 )
函號	199	358



A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

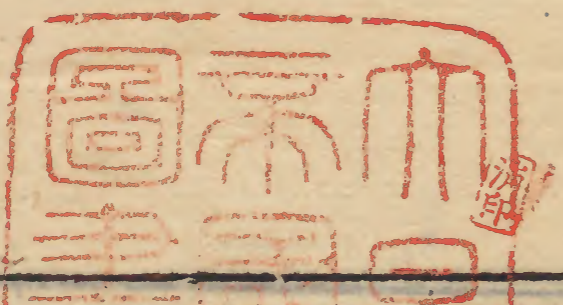
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak







花匠綱目卷中

明治十二年購求

國承秋十部

仙蔣花

為久附子

栝樓

秋海堂

思篇豆

炒蘭

蓮

思消子

級白附子

仙皇栝樓

鷄頭

岩蓮華

紺菊

あさみ

白附子

戾招

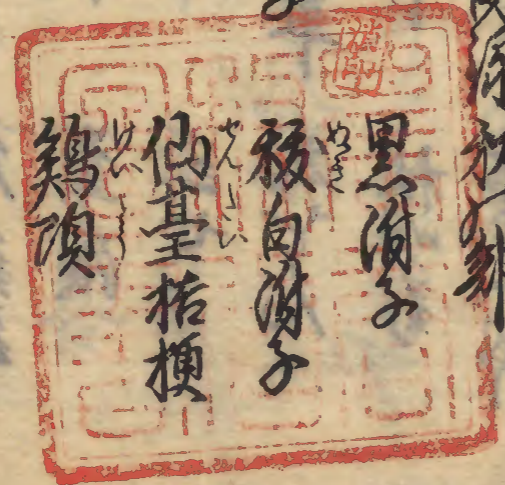
みんれ菰

白篇豆

前

天孫子百全

部





たんごせん 烏扇

淡雪 萩川

南樓 唐鶏頭

為来草 烏頭

野菊 三七

あどろ草 志之人

百部草 杜明菊

鳥菱 淡木綿

广香草 芙蓉

鳳仙花

牡丹花

淡桔梗

淡菊

三七

水葵

草南天

蘭菊

以菊 三葉丁子

藤のしるし菊

白きしるしと白小葉

冬牡丹

常盤草 冬菊

冬牡丹 寒百合

石竹 金錢花

紅萵草 万月梅

澤蘭

芭蕉

梅瑞草

水仙花

子葉草

長春

雜草類



咲つゝ夕あまきし積たぬ  
 青とひくまをりし



花辰綱目巻中

秋草此類

仙遊花 花白赤也咲此月 養去と合虫

用く宜し 肥と面はすし小傾が葉花

多分根はくけし 分極と二月に末し

三月前ましく八月に末し九月前ましく

又樹下は極者

黒附子 花赤久也咲此月末し七月中と

養去と肥去しすかませ用也 肥と負あし

いけ少し根は月一 分極と去秋と







ませ合用也。肥とあし得るを極とて用く  
百一。分極と四月の旬より自頼水月より極  
り

鶏頭。花白赤紫紫及紫赤白赤入候以八月

迄。養去と真去と肥去すませ用く

百一。肥と雨はまへ小便が根とくくへき

なり。分極と三月子実と蒔秋を以分なり

白薔皮。花白あり候以七月。養去と肥去よ

すませ分ませ合用也。肥と右同也。分極

と春秋の旬より

黒薔皮。花紫あり候以まへ同。養去肥去極

り候候右同也

岩蓮華。養去と肥去用也。肥と真あり

いけくへへみちく水をりりりり。分極

と岩ありくよ右之肥去まへ極去うへよけ

と玉也美秋を以

蘭。花薄紫あり候以七月。養去とあし

けたる赤去よ白すませ分合を以用なり

肥と下巻れ真蘭花よあしある候なり

分極と八月末より九月前まで



妙蘭 花白なり暖法まへ月 ●養食去肥分

種より何れも右同前也

緋菊 花赤い黄なり暖法まへ月 ●養食去

合去用く宜し ●肥を田作らぬより粉あり

く根息への宛用又油うきけ粉より成也

雨液まへ各小使と宛宛根息へく一 ●

分極と秋法

大麻子百合 ●花白赤くを此紫花身あり夏

秋部の麻子百合より大端也暖法まへ月 ●

養食去まへけたり赤去より白す分養食去まへ

用也 ●肥を柔うく干粉より根息へり

一 ●分極と春秋分

蓮 ●花赤白花あり暖法去七月 ●養食去田

去用く宜し水とたひり也 ●肥を去り

り入く一 ●分極と右同前

あさみ ●花白紫なり暖法七月 ●養食去肥

去す分まへ合用也 ●肥を雨れすへ小使

根息へ用く宜し ●分極と秋法

郭公 ●花赤く紫花入暖法まへ月 ●養食

去合去用く宜し ●肥を去り



只ノ用也。分極ノ右同

牡丹ノ花也。花赤白有之。あり豊後百谷と云

咲此ノ人ノ同。養蚕ノ末ノ付たる赤土ノ

すよノ台合用也。肥ノ桑ノ干粉ノ

根ノ人ノ一ノ。分極ノ春秋ノ用

馬ノ扇。花赤折葉多也。咲此六七月。養蚕

ノ肥土ノすよノ台合用也。肥ノ右同。

分極ノ素此此冬ノ海州ノ家ノノノ

鳳仙花。花多ノわノ花ノ色ノ咲此七月。養

土ノ右同也。肥ノ雨ノ人ノ便ノ根ノ

分極ノ実と二月ノ荷秋ノ

淡雪。花白也。咲此八月。養蚕ノ台合用ノ

肥ノ土ノ。分極ノ七月末より八月中自

萩。花白紫也。咲此八月。養蚕ノ肥土ノ

分極ノ台合用也。肥ノ右同也。分極ノ実ノ

女扇花。花黄也。咲此八月。養蚕ノ台合

用ノ。肥ノ桑ノ干粉ノ

分極ノ素此此



南樓 花白也後修と云候はまへ月 養  
 去と肥去よすかませ用也 肥分極と右月  
 養鶏頭 花紅紫かを折葉と云及黄あは候  
 比八九月 養去と真去よ肥去すかませ用也  
 肥と雨はまへ小便を搦るへくへさなり 分極  
 と三月は實と蒔秋之法今なる  
 沃接梗 花為屠及候はまへ月 養去と肥去よ  
 すかませ又公草よ八野去かへ宜し 肥と  
 右月茶 分極と春秋之時分 養去と肥去よ  
 一々

福草 花赤黄深赤黄薄草田之法今なる  
 養去と真去よ肥去すかませ用也 肥と右  
 田茶 分極と三月は實と蒔秋之法今なる  
 鳥頭 花為屠及候はまへ月 養去と肥去  
 よすかませ用也 肥と真あへ汁用と宜  
 一 分極と母時  
 濱菊 花白也黄候はまへ月 養去と肥去  
 よすかませ野去と加へ用なり 肥と田作  
 しぬりも粉よ一々根思へん宛用又油と  
 け粉えちしは也雨落すへん各小便と少







肥分極るの右同あり也

水葵 花白為父味法す人よ同 養食とて同

用く巨一水とたむ也 肥とておとほつる

根只入くし 分極とて三四月之法

日向葵 花白大揚なり味法す人よ同 養食肥

同前 分極とて實ととるに妻可耐なり

漢本綿 花白也味法す人よ同 養食とて真

云肥とておとほつるに妻可耐なり 肥とて雨はす小使

少根只入用く巨一 分うへはとて妻秋

之耐る

草南天 花紫父也味法す人よ同 養食とて肥去

よすおとほつるに妻可耐なり 肥とて真あり

いし根只入くし 分うへはとて右同あり

二香草 花為父なり味法す人よ同 養食と

と合用く巨一 肥分極とて右同あり

芙蓉 花重八重白為父なり味法す人よ同 養食と

養食とて肥分極るの右同あり

蘭菊 花此紫父也味法す人よ同 養食とて肥

とよ自すを未大何食也分よすに合用く

巨一 肥とて養食とて干於小く右根と



の古よき也。分極と表秋之付

は菊。花は冬也。味はまじ同。養去肥分極

る。何後右同也。

三葉丁子。花黄なり。味はまじ同。養去

と合去用之。肥と臭あひ。根

は久用。分極と右同なり。

澤蘭。花白なり。味はまじ同。養去と

あけたる赤去は白す。分極合用。

肥と下寒は奥蘭は。九月高き

に。分極は八月末より九月高き

藤。花白赤なり。味はまじ同。

養去と合去用之。肥と臭あひ

分極と右同なり。

の付

菊。花白赤なり。味はまじ同。

味はまじ同。養去と合去用之。

肥と臭あひ。分極と右同なり。

根は久用。分極と右同なり。

け。分極と右同なり。



互――かちあがらるるを田作なるともいふ  
ふたなり根々さしく手入――時  
水とくけくより。分極を二月末  
より三月中旬に法す

芭蕉。花が黄也。味も人同。養長去る

真去肥去すを用く互――。肥を雨ぬる

まへに各小使が根をくけく互――

分極を秋に法

白よりくけく。花白をすり味法七八月也

養長を合去用く互――。肥を真あ

らへに根をくけく互――。分極を

去秋に法

白小葉。花白をすり味法八月物より。養

去を肥去よすをませ合去用く互――。肥

を去るく手於より根をくけく互――

なり。分極を右同

梅瑞草。花が瑞草也味法まへに同。養長去

を合去用くより。肥を真あ

い――根をくけくより。分極を

右同に法すなり



久々草花類

常盤草 ●花白又なり咲法十月 ●養蚕  
 上肥土よす分少ませ合用し巨し ●肥  
 八小便少雨止まると根足くけしよ又  
 茶くし干粉よし〜ち〜し〜とよ後  
 ー ●分極とを秋を飼ふ  
 養蚕 ●花黄又なり咲法霜月 ●養蚕  
 上真土肥土よす分ませ合用し巨し  
 肥とよす養蚕干粉よし〜右之土よす  
 合極と用くしー ●分極と六月なり

水仙花 ●花白中黄なり咲法十月至月也 ●

養蚕と真土用し〜後〜となり ●肥之  
 右之土よ葉灰ませ根回へ用く巨し〜ま  
 下肥る養蚕右の内へ少加し根をせとくと去を  
 移させ〜用なり ●分極と六月去用之  
 中可移なり

冬牡丹 ●花為白赤なり咲法冬を初後か  
 里 ●養蚕とあけけたる赤土よ少と加  
 へ用くし〜後〜となり ●肥と存る土へ  
 下肥ませ合土と移させ養蚕とくまると去の



能肥たる付しぬり母くさき好い存此  
根白く用くよ偽し交なり  
●分極  
を九月中旬より十月下旬まゝく可  
然なる也

寒百合 ●花為白なるも咲法をより長く  
分け候あり ●養土をわく去用く宜  
し ●肥を存之ちへる番葉干し粉  
をわく根白くませわくせちく  
し交なり ●分極を去秋中ころ去  
月云用れ中色可然なり

雜草此類

石竹 ●花白赤為又沙黄折葉くを悉り  
候ふ其介又だくありすこしれり  
多くあるを八重二重也 ●養土を  
沙用く宜し ●肥を去加へくと可然  
なり ●肥を海水去せわけし粉小  
を沙少くませ根白く用くよ偽し交也  
分極を去ととり甚しり毎月葉を嚼く  
よ花候古根を三年程をわく  
金盞花 ●花黄なり ●養土を肥去よすな



少ませ用く臣一 肥を雨にまて小使  
すまへ 根をへくへまなり 分極を二  
月より毎月移して存へて一年切よか  
ゆへ

多麻菊 花黄赤白なり 養食を真去

肥去す少ませ合用く臣一 肥を存

大へる養食了務より根をへりて

臣一 分極を存以りなり

紅黄草 花あいのりなり 養食を合用

く臣一 肥を真あひし合用く臣

ト 分極を存以りなり

万目海 花紫多なり又干目海とも云

養食を肥去す少ませあひし合用く

臣一 分極を存以りなり

多る存以り大よめ種少ませ根をへり

可成なりとまへと真あひし合用く

用くゆへ 分極を存以り

長春 花赤為多なり根草を 養

去る真去す肥去す少ませあひし合用く

ゆへ 分極を存以り 肥を真あひし合用





小便少根長くけくも後しふたなり  
分極と右同前なり

花柳綱目巻中終



